

令和5年度 学校評価書(共通) 後期

校名

宇和島市立奥南小学校

1 自己評価書

教育目標 命を輝かせ、心豊かにたくましく生きる奥南っ子を育てる						
基本方針		1 凡事徹底、規範意識の向上、思いやりの心など豊かな人間性を育てる教育を推進する。 2 児童の地域貢献の思いを大切に、自己有用感を高め、児童の発想を生かした教育活動を推進する。 3 基礎的な力や表現力・対話力の育成を図り、伝え合い、深く学び合い、高め合う児童を育成する。 4 家庭や地域とともに歩み、地域から信頼され、愛される学校を目指す。				
本年度重点目標		1 命を輝かせる教育の推進(奥南っ子宣言の実践を図る。) 2 自分の考えを持ち、伝え合い、深く学び合い、高め合う児童の育成 3 体験活動を通じた深い学びと豊かな心や自立心の育成 4 家庭・地域との連携による、良い習慣づくり、強い体づくり 5 教職員の資質・能力の向上を図るための現職教育の充実と組織力の向上と働き方改革の推進				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	B	B
			・具体的な対策の実施	B		
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	A		
	③	家庭学習の充実	ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート	B	B
			・児童生徒アンケート	A		
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート	B	
	④	読書活動の充実	一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・保護者アンケート	A	B
			・児童生徒アンケート	A		
家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)			・教師アンケート	B		
⑤	ふるさと学習及びESDの推進	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的にに行った。	・保護者アンケート	B	B	
		・児童生徒アンケート	B			
		社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	B		
(成果と課題) ○児童の学力向上に向けて、アナログやデジタル資料の効果的な活用など、授業改善に取り組むことができた。 ○振り返りの観点を「おくのこ」と決めることで、以前よりねらいに迫る振り返りになった。 ○教師のファシリテーション能力の向上を目指す必要がある。 ○読書量や取り組む姿勢に個人差が大きい。						
(改善策等) ○授業研究や校内研修会を通して、アナログとデジタル資料の使い分けを意識した授業、学習の流れが分かる板書やワークシート、振り返りシートの活用、教師の主発問や補助発問の仕方について研修を深める。 ○「おくのこ」の観点を意識させた振り返りを書かせることで、学習内容の定着を図る。 ○定期的に読書貯金通帳を確認し、児童の取組状況を把握しながら、目標達成を目指す。						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	A		
	③	基本的な生活習慣の徹底	不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
			・児童生徒アンケート	A		
			・保護者アンケート	A		
	④	自己肯定感等	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	B	B
・児童生徒アンケート			B			
・保護者アンケート			A			
⑤	基本的な生活習慣の徹底	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	B	B	
		・児童生徒アンケート	B			
		・保護者アンケート	A			
⑥	自己肯定感等	自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B	B	
		・児童生徒アンケート	B			
		・児童アンケート	A			
(成果と課題) ○定期的に情報を共有することで、一人一人の気持ちに寄り添うことができた。 ○共通認識の下、凡事徹底(挨拶、返事、履物を揃える)を日頃から呼び掛けることで徹底されてきたが、細かい規則について、共通認識がおろそかになっていることがあった。 ○児童会を中心に、朝ボランティア活動や挨拶運動を実施することで、自己有用感や自己肯定感の向上につながった。						
(改善策等) ○引き続き情報共有を行い、困り感を抱えている児童に寄り添いながら、児童の健全育成に努める。 ○学期初めや年度初めなど、定期的に共通理解事項を確認しながら、規則を守る指導を徹底する。 ○児童発案による地域への貢献活動など、自主性を大切に活動を企画することで、地域へ貢献したいという気持ちを高める。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 教職員の意識改革 に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B C	B
	② 働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
	③ 他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
<p>(成果と課題)</p> <p>○些細なことでも相談できる雰囲気が感じられ、風通しの良い職場づくりができていた。 ○仕事のベース配分を調整したり、計画的に仕事を行ったりすることで、時間外勤務をかなり減らすことができた。 ○時間外勤務80時間を超えることがある教員が数名いる。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○今後も報告・連絡・相談を大切にしながら、風通しの良い職場づくりを継続する。 ○経験の浅い教職員に対して、思いやりを持った助言や指導を行い、職責を果たすための資質や能力の育成を目指す。 ○教育活動を組織として推進し、教職員それぞれがやりがいを感じられるような職場づくりを目指す。 ○80時間を超える教員には、面接希望の意思確認をしたり、支援したりしながら職務を遂行する。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B B A	B
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A	A
	③ 来校・相談体制	保護者や地域の方々に来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B A	B
<p>(成果と課題)</p> <p>○学校運営協議会に働き掛け、学校、家庭、地域が協力して教育活動を実施することができた。 ○学校運営協議会だよりを定期的に発行するなど組織の活性化に努めることができた。 ○統合に向けて、更に地域と協力できる組織作りに努める必要がある。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○引き続き、学校運営協議会だよりを発行し、学校での取組を広報、啓発することで、地域との連携を密にする。 ○学校行事等を地域とともに作り上げる中で、社会に開かれた教育課程の実施を目指す。 ○学校運営協議会を窓口、閉校に向けた諸行事、記念誌等の作成が円滑に行えるような組織づくりに取り組む。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満